

令和4年度
事業報告書

自：令和4年4月 1日

至：令和5年3月 31日

社会福祉法人若狭町社会福祉協議会

法人運営事業

◇ 組織体制の強化

・ 理事会の開催

- | | | |
|--------|--------|--------------------------|
| 6月9日 | 第1号議案 | 令和3年度事業報告及び決算報告について |
| | 第2号議案 | 評議員選任解任委員の選任について |
| | 第3号議案 | 評議員会の招集について |
| 9月15日 | 第1号議案 | 赤い羽根共同募金について |
| | 第2号議案 | 育児介護休業及び短時間勤務規程の変更について |
| | 第3号議案 | 非正規職員就業規則の変更について |
| 12月15日 | 第1号議案 | 上期中間監査報告及び今後の事業運営について |
| | 第2号議案 | 令和4年度第1次補正予算(案)について |
| | 第3号議案 | 給与退職金規程の変更について |
| | 第4号議案 | 評議員会の招集について |
| 3月23日 | 第1号議案 | 小規模多機能ホームほたる熊川宿の廃止について |
| | 第2号議案 | 令和4年度第2次補正予算(案)について |
| | 第3号議案 | 令和5年度事業計画(案)並びに予算(案)について |
| | 第4号議案 | 事務局及び職員に関する規程の変更について |
| | 第5号議案 | 就業規則の変更について |
| | 第6号議案 | 非正規職員就業規則の変更について |
| | 第7号議案 | 定年退職者嘱託再雇用規程の変更について |
| | 第8号議案 | 給与退職金規程の変更について |
| | 第9号議案 | 経理規程の変更について |
| | 第10号議案 | 苦情解決第三者委員の選任について |
| | 第11号議案 | 役員等損害賠償責任保険契約について |
| | 第12号議案 | 評議員会の招集について |

・ 評議員会の開催

- | | | |
|--------|-------|--------------------------|
| 6月24日 | 第1号議案 | 令和3年度事業報告及び決算報告について |
| 12月23日 | 第1号議案 | 上期中間監査報告及び今後の事業運営について |
| | 第2号議案 | 令和4年度第1次補正予算(案)について |
| 3月31日 | 第1号議案 | 小規模多機能ホームほたる熊川宿の廃止について |
| | 第2号議案 | 令和4年度第2次補正予算(案)について |
| | 第3号議案 | 令和5年度事業計画(案)並びに予算(案)について |

○積立金	特別会費	199 件加入	1,198,000 円
	福祉基金積立	8 件	554,330 円
	設備等整備積立	21 件	2,386,689 円
	修繕積立	4 件	400,000 円

地域福祉事業

<小地域福祉活動推進事業>

◇ 地域課題解決を目的とする、住民が主体となった福祉活動の支援

- ・地域づくり協議会へ参加し、地域住民との意見交換や課題の解決にむけての情報提供を行いました。
- ・小地域福祉活動推進モデル集落を5集落指定しました。集落代表者と個別に連絡をとり、定期的に課題の共有や情報交換を行うことで集落の将来を見据えたこれからの福祉活動について検討する機会を作ることができました。

- (1) 鳥羽地区支え合い連絡会 1回
熊川地区支え合い推進委員会 1回
みそみ地区 地域づくり協議会福祉部会 4回
- (2) 小地域福祉活動推進モデル集落の設置（共同募金審査委員会にて決定）
令和2年度～令和4年度：下野木区、長江区、佐古・田名区
令和4年度～令和6年度：下タ中区、兼田区

◇ 福祉委員が地域福祉活動において中核的な役割を担う人材となるための支援

- ・昨年度に引き続き（今年は福祉委員任期2年目）地域福祉活動においての活動支援を行いました。

<ボランティアセンター運営事業>

◇ 住民や企業に向けたボランティアセンターの周知とPR

- ・町内をはじめ県内のボランティア体験活動情報(ボランティア体験2022)について広報誌を活用し発信したことにより、多数の申し込みがありました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、受け入れ休止となる施設が増え申し込みを断る状況になりました。また、地域のボランティアを広報誌にて紹介し、住民へボランティアの啓発を行いました。
- ・三方建築業組合による家屋補修ボランティアを8月21日、上中建築組合による家屋補修ボランティアを11月27日に実施しました。

- (1) ボランティア登録、更新、斡旋業務の充実
個人ボランティア登録者数 12名
ボランティア団体登録数 2団体
ボランティア活動保険加入者数 788名（災害特例8名）
- (2) 福祉教育の推進
ボランティア出前講座の開催
6月14日 福祉、社協について 瓜生小学校
7月11日 講義（引き札学習） 熊川小学校
7月27日 車いす体験 三方第一児童クラブ

8月10日	福祉について、アイマスク体験	上中児童クラブ
8月17日	障がいについて	三方第二児童クラブ
9月6日	高齢者疑似体験	瓜生小学校
9月28日	福祉、障がいについて	鳥羽小学校
10月4日	高齢者疑似体験	鳥羽小学校
10月14日	障がいについて	気山小学校
10月20日	アイマスク体験	気山小学校
10月28日	車いす体験	気山小学校
11月8日	車いす体験	鳥羽小学校
11月10日	社協について	上中中学校
11月11日	手話体験	鳥羽小学校
11月11日	講義（引き札学習）	熊川小学校
11月25日	高齢者疑似体験	三宅小学校
11月25日	高齢者サービスについて	瓜生小学校
11月28日	講義（引き札学習）	熊川小学校
11月30日	アイマスク体験	三方小学校
12月2日	アイマスク体験	三宅小学校
12月7日	高齢者疑似体験	三方小学校
12月8日	高齢者疑似体験	三方小学校
12月13日	車いす体験	三宅小学校
12月21日	障がい者スポーツ体験	鳥羽小学校
12月27日	デイサービスについて（リモート）	瓜生小学校
2月13日	点字体験	気山小学校
3月3日	手話体験	気山小学校

(3) 家屋補修支援事業

三方地域 7月23日 希望者 6件 実施 3件 ボランティア 5名

上中地区 11月27日 希望者 13件 実施 7件 ボランティア 15名

(4) ボランティア活動への支援

図書館ボランティア『虹の会』 おげんきですか発行支援 4回

(5) サポーター企業について

地域貢献に取り組む企業（サポーター企業）の定義付けを行いました。

(6) 地域で支える送迎サービス

利用登録者 64名 貸出件数 208件 延利用者数 817名

(7) レクリエーション用具の貸出し

第1三方児童クラブ、第2三方児童クラブ、上中児童クラブ

若狭町知的障害児(者)のぞみ会、藤井サロン、鳥浜サロン

<つながりの輪推進事業>

◇ ボランティア活動を通じた地域へのつながりを推進

ボランティア活動普及のためボランティア出前講座について本会での取り組み内容を町内全ての小学校へPRに行きました。併せて社協だよりで啓発を行いました。

<子供を中心に地域で取り組む福祉教育推進事業>

◇ 子どもの頃から自主的に福祉活動に取り組むことができるような支援

- ・ 鳥羽小学校を本事業の指定校とし、「高齢者や障がい者が生活を行う上での課題は何か」をテーマとした福祉教育学習を昨年度実施し、小中学校において社会福祉への理解と関心や啓発を図ることを目的とする越前町社会福祉啓発事業説明会において本事業での成果報告を行いました。今年度新たな活動として熊川小学校にて取り組んでいる内容についても情報発信することができました。

<若狭町災害ボランティアセンター連絡会運営事業>

◇ 発災時の動き方や設置、運営に関する協議

- ・ 若狭町担当課と災害ボランティアセンターの在り方について検討しました。

◇ 若狭町災害ボランティアセンター運営支援

- ・ 嶺北地域に発生した大雨災害により、勝山市と南越前町にて災害ボランティアセンターが立ち上がり、県社協からの職員派遣要請を受け、下記の内容で運営支援活動を行いました。

(職員派遣について) 活動期間 8月15日(月)～8月27日(土)

南越前町災害ボランティアセンター運営支援を目的として、交代で職員が現地へ向かい、県内社協職員などと共にボランティアの受け入れや災害ボランティア活動に対する心構え、活動に際しての注意点の説明を行うなど災害ボランティアセンター運営支援活動を行いました。また、ボランティアと共に被災された住宅での泥出しや掃除、ゴミの搬出作業などにも取り組み、被災された方の生の声を聞くことで被災地での生活の様子やニーズなど情報収集も行うことができました。

(災害義援金街頭募金について) 活動期間 8月12日(金)～8月19日(金)

被災地の早期復旧に繋がるように、プラント2店舗出入口にて街頭募金を実施しました。活動期間を通して、合計110,990円の義援金が集まりました。

(災害ボランティア募集とボランティアバスの運行について)

被災地域に1人でも多くのボランティアを派遣できるように、新聞折り込みや行政チャンネル、有線放送によるボランティア募集とボランティアバスを運行しました。また、若狭町災害ボランティアセンター連絡会の協議団体・協力団体や当会のサポーター企業へ情報を共有し協力を依頼しました。

<送迎支援サービス事業>

◇ 住民のニーズを踏まえた支え合える体制づくりの推進

(1) 外出支援サービス事業(上中地域 55 名、三方地域 36 名)

(2) 個人用福祉車両貸出し事業 (13 件)

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
外出支援	185	21	17	20	16	13	15	102
		9	4	11	8	9	7	48
個人用貸出	38	2	2	2	2	1	3	12
		1	0	0	1	3	1	6
地域で支える送迎サービス	1,120	92	97	80	88	89	92	538
		76	67	76	74	59	60	412

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
外出支援	11	13	22	21	18	24	109	211
	9	12	7	6	5	4	43	91
個人用貸出	1	2	2	1	2	2	10	22
	1	1	1	1	1	3	8	14
地域で支える送迎サービス	92	84	71	62	66	69	444	982
	66	68	74	61	65	71	405	817

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<福祉総合相談事業>

◇ 各種相談事業の周知と様々な相談へ対応

(1) 心配ごと相談

毎月第2火曜日 12回開催 相談件数 0件 (上中地域0件、三方地域0件)

(2) 無料法律相談

毎月第2火曜日 12回開催 相談件数 41件 (上中地域22件、三方地域19件)

- ・ 相談内容により、若狭町担当課へと情報共有し相談者の課題解決のため連携を行いました。

<生活困難者支援事業>

◇ サービス利用者に合わせた適切な支援

- ・ 認知症高齢者や知的障がい者など、判断能力の不十分な方が在宅生活を継続していくため、地域住民や関係機関と連携しながら、適切なサービスの提供に努めました。
- ・ 生活福祉資金貸付事業において借入申込受付を行いました。新規貸付7件すべて新型コロナウイルス特例貸付での申し込みでした。
- ・ 当会が実施する介護サービスの利用者のうち、家庭の事情等により金銭等の管理が困難な方の、少額の現金および自宅出入口の鍵を管理しました。
- ・ 所持金が少なく、食事に困っている生活困窮者に対して、食糧の提供を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業

(新規契約1件、契約終了2件、現在利用中13件)

(2) 金銭等管理事業

(新規契約1件、契約終了3件、現在利用中6件)

(3) ふくしの資金貸付事業

①生活福祉資金貸付 (新規契約8件、契約終了0件、現在利用中82件)

②たすけあい金庫貸付 1件

③緊急食糧支援事業 1件

(4) ふく福くらしサポート事業

生活困難な方を対象とした総合的な相談や生活支援(現物給付)を行いました。

(相談1件、利用1件)

<広報活動>

◇ 様々な世代に対する地域福祉活動などの福祉情報の広報

- ・ 地域福祉に関心を持ってもらえるよう、住民の関心の高い情報を広報誌で発信するため企画を検討しました。若狭町で活躍する外国人・若者・福祉関係者の紹介や町内の介護保険事業所紹介に加え、新たな企画として町内でボランティア活動をされる方の紹介を掲載しました。
- ・ ホームページやSNSを使い、町内の情報をはじめ県内のボランティア情報や福井県共同募金会の情報を発信しました。

(1) 社協だよりの発行 4、6、8、10、12、2月発行

<介護予防・生活支援>

◇ 福祉用具が必要な方への貸出し

- ・福祉用具の利用状況（利用者の状態に適しているか、異常の有無）について確認し、貸出用具が有効に活用されている状態を維持できるよう取り組みました。
- ・必要に応じて貸出用具の整備を行い、いつでも貸し出せる状態を維持しました。

（１）介護用品無料貸出事業

ベッド	貸出し中	14台	（残 4台）
車いす	貸出し中	7台	（残 15台）
スロープ	貸出し中	1台	（残 1台）
サイドテーブル	貸出し中	0台	（残 3台）

<障がい者アート作品公募事業（きらりアート展）>

◇ 障がい者および特別に支援を必要とする児童・生徒の公募アート作品展開催

- ・県の障害福祉施設情報を基に公募案内先を見直し、新たな障害福祉事業所へ公募案内を行いました。その結果、新規事業所からの出品があり新たな作者の発掘や活躍できる場の提供へとつながりました。
- ・申込受付(210点)及び審査会を実施し、受賞作品36点が決まりました。パレア若狭ギャラリー及び県庁、美浜なびあす、ネッツトヨタ福井巡回展示に向け準備や連絡調整を行いました。
- ・障がいや遠方に居住しているなどの理由で展示会に来ることが難しい方にも出展作品を楽しんでいただくため、当会のYouTubeチャンネル開設及び全出展作品を掲載した動画制作を行い、配信しました。

<共同募金助成金事業>

◇ 集落での活動、障がい者や生活困難者への支援などさまざまな地域福祉事業への共同募金助成金の活用

【一般募金助成金事業】

- ・小地域福祉活動推進モデル集落（5集落）への助成
- ・きらりアート展の開催 応募数 210点
- ・要援護者支援調査
若狭町内の要援護者についての調査を行う費用として活用しました。

【歳末たすけあい募金助成金】

- ・障がい児（者）クリスマス会

障がいを持った子どもたちとその家族を対象に実施しました。

開催日：12月11日 参加者：30名

- ・歳末たすけあいひとり暮らし高齢者激励事業

町内在住で75歳以上、町内に実子がいないひとり暮らしの方を対象に、「そば・豆」「花・お茶」「日用品」から希望の品を福祉委員に届け、福祉委員に安否確認・孤独感の緩和を兼ねて訪問・お届けしていただきました。贈呈品には、上中中学校、三宅小学校、野木小学校、みそみ小学校、三方小学校の児童生徒からの手書きのメッセージを同封しました。

配布日：12月16日 対象：65集落 211名

- ・児童遊具設置修繕費助成事業

児童遊具の設置または修繕が必要な集落へ、費用の一部を助成しました。

助成集落：世久見区、岩屋区、田上区、横渡区、無悪区

通所介護事業

- ◇ 安全で安心した在宅生活の支援を目的とした多様なニーズを受け入れる体制作り
 - ・ 専門職として知識や介護技術を身に付けたうえで、重度の方を受け入れられる職員体制を整えることができました。
 - ・ 新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、安全に地域交流ができるよう努めました。

＜デイサービスセンターパレア若狭＞

- ◇ 認知症個別ケアのサービス提供
 - ・ 認知症実践者研修の参加者 1 名。現場研修の取り組み内容として事例検討を行い認知症ケアの取り組みについてチーム全体で関わることが出来ました。
 - ・ 職員のスキルアップを図り、専門性を活かして個別ケアに取り組むことが出来ました。
 - ・ 3 月から熊川地区の利用者 8 名の新規受け入れをしました。安心して新しい環境で過ごしていただけるよう、認知症の利用者をはじめ、おひとりお一人に寄り添いました。
- ◇ 介護予防の一環として、団塊世代のニーズに合ったサービス提供
 - ・ 利用者家族を対象に、デイサービスに対して求める内容や質問などをアンケート形式で調査を行いました。
 - ・ 個別ニーズに合わせ、タブレットを活用したゲームや動画鑑賞、俳句や手芸などの個別活動を実施しました。
- ◇ 生活支援ハウスとの連携
 - ・ 新規入居者がデイサービス利用することで、体調管理や家族との連携を強化することが出来ました。
 - ・ 冬期入居者がデイサービスを利用し安心安全に入浴することが出来ました。
- ◇ 利用実績（定員：18 名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
通所介護	3,825	314	318	335	354	389	401	2,111
		307	332	320	319	346	330	1,954

（下半期）	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	合計
通所介護	393	387	366	314	262	306	2,028	4,139
	294	261	227	181	223	333	1,519	3,473

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

◇ 利用実績（定員：7名、営業日：月曜日～金曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
緩和型A型	1,300	116	114	104	104	101	92	631
		70	72	72	66	72	62	414

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
緩和型A型	90	93	100	79	72	91	525	1,156
	65	63	50	62	69	82	391	805

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<デイサービスセンターいずみ>

◇ 機能訓練の充実

- ・高齢者レクリエーションの研修に2名参加しました。個々の身体状況に合わせた声掛けで、ADLの低下を予防する内容を交えた体操を提供し、レクリエーションの時間に実践することが出来ました。

◇ 実費サービスの検討

- ・7月から基準緩和型の利用者も1日デイサービスを利用出来るよう、13時以降を介護保険外サービス（自費サービス）として提供しました。「冬場だけ1日利用をしたい」と言われていた方も「通年を通して利用したい」との希望があり基準緩和型の全員が自費サービスを利用することが出来ました。

◇ 利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
通所介護	3,481	284	300	300	315	300	300	1,799
		287	274	257	261	274	251	1,604

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
通所介護	294	297	244	239	251	300	1,625	3,424
	239	229	224	212	193	226	1,323	2,927

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

◇ 利用実績（定員：10名、営業日：月曜日～金曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
緩和型A型	732	57	45	58	62	62	53	337
		32	29	40	46	45	47	239

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
緩和型A型	58	48	41	44	27	30	248	585
	43	46	37	36	35	30	227	466

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<デイサービスセンター五湖の郷>

◇ 地域に根差した運営づくり

- ・ 事業所内の作品展示スペースを拡大し、利用者一人ひとりが展示活動に関わる事で創作意欲の向上に繋がりました。
- ・ 梅の里保育園との交流企画は、新型コロナウイルス感染症予防のため活動の制限がありますが、下半期は屋外での交流活動を実施することが出来ました。

◇ 多様なニーズを柔軟に受け入れられる体制の整備

- ・ 利用者や家族のニーズに基づいた送迎時間の調整や短時間利用など、柔軟に対応することができました。
- ・ 年代や性別で異なるレクリエーションニーズに対応するため、個別で出来る活動を新たに取り組み、意欲や機能の向上に一定の成果を得ることが出来ました。
- ・ 基準緩和型の利用ニーズで、3名の利用者が介護保険外サービス（自費サービス）を契約し1日利用していただくことが出来ました。

◇ 利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
通所介護	3,504	287	303	303	296	305	343	1,837
		296	313	311	292	273	265	1,750

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
通所介護	296	303	305	258	248	297	1,707	3,544
	286	273	281	242	236	263	1,581	3,331

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

◇ 利用実績（定員：5名、営業日：月曜日～金曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
緩和型A型	360	24	18	24	27	29	37	159
		18	15	15	9	16	18	91

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
緩和型A型	39	32	23	25	26	24	169	328
	13	18	15	16	28	31	121	212

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

居宅介護支援事業所パレア若狭

- ◇ 特定事業所の介護支援専門員としての資質向上
 - ・ 毎月開催されている地域ケア会議への助言者として6月8月10月12月に参加しました。また、同会議の参加者として5月2月に事例提供を行いました。若狭町ケアマネ連絡会（認知症や高齢者虐待、障がい者制度の研修やケアプラン作成について等）を始め、認定調査や科学的介護情報システムの研修、訪問看護との合同研修会等に参加、受講し、資質向上に努めました。
 - ・ 要件を満たした職員1名が主任介護支援専門員研修受講し主任ケアマネジャーの資格を取得予定でしたが、体調不良により、受講できない日程もあったため、来年度に不足した科目を受講し、取得予定となりました。
- ◇ 地域福祉事業、小規模多機能ホームとの連携強化
 - ・ 地域福祉事業の金銭等管理事業利用者や福祉機器貸出対象者について情報交換を行い、生活に必要な支援を行いました。また、ふく福くらしサポート事業を活用し、冷房機器の設置等を行う事で生活困難への支援を行いました。
 - ・ 小規模多機能ホームの利用者が小規模多機能以外のサービス希望された時には、情報交換等連携し適切なサービスへの移行の支援や、担当者会議を合同で行う等、連携を行いました。
 - ・ 小規模多機能ホームほたる熊川宿の休止に伴い、ほたるの登録利用者の引継ぎを行い、居宅パレア若狭の居宅介護支援へのスムーズな移行を行う事ができました。
- ◇ 相談窓口としての役割強化
 - ・ 窓口にプレートを設置し、来客者に相談窓口としての周知を行いました。
 - ・ 顔の見える関係づくりを目指し、福祉委員の研修会等への参加を予定していましたが、参加できませんでした。

◇ 利用実績

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
居宅介護支援	1,579	109	114	112	119	118	121	693
		124	124	124	131	131	138	772

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
居宅介護支援	126	123	129	120	122	124	744	1,437
	142	141	142	134	135	146	840	1,612

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

介護予防・上半期実績 56件、下半期実績 61件

生活支援ハウス

- ◇ 居住機能・介護支援機能・自立支援機能を総合的に提供します。
 - ・入居後も通所介護や訪問介護のサービスを継続しながら快適に過ごしていただきました。
 - ・冬季は新規利用の自立した入居者が多く、支援ハウス共有スペースは活気あふれる交流の場所となりました。
- ◇ 各関係機関との連携強化による適切な運営
 - ・社協だよりに支援ハウスの内容を掲載して住民の方へ広く周知することが出来ました。
 - ・緊急の入居申請が多数あり、内部判定委員会で判定を行う事で入居者を待たせることなく、迅速な対応ができました。
 - ・コロナ禍、ケアマネの訪問や面会は別室を設けて実施することができ、モニタリングやサービスの継続をすることが出来ました。
- ◇ デイサービスセンターパレア若狭との連携
 - ・入居者の体調の変化や認知症状への関わり方について、デイサービスのスタッフが兼務することで、専門的な見解から判断を行い迅速な対応ができました。
 - ・冬期入居者がデイサービスを利用し、外部との交流を持つことで活動的な入居生活を送ることが出来ました。

- ◇ 利用実績（居室利用定員：12名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
生活支援ハウス	2,400	150	160	130	130	160	170	900
		42	51	30	111	135	174	543

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
生活支援ハウス	200	200	270	310	280	240	1,500	2,400
	143	103	108	256	250	143	1,003	1,546

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

訪問看護ステーションわかさ

- ◇ 各関係機関、他の事業所との連携強
 - ・ 地域ケア会議や他職種連携会議等への参加を通し、地域包括ケアシステムの構築に向けた支援体制に貢献しました。
 - ・ 地域サロン等へ参加し、健康指導や運動指導等を通して地域住民の健康維持に努めました。
 - ・ 合同研修会の開催等、他ステーションとの連携強化に努めました。

- ◇ 在宅生活を継続できる支援体制の整備
 - ・ 直行直帰等の働き方改革に取り組み、職員が働きやすい環境を整えることと共に感染症対策の強化に努め、安定した支援体制の構築に努めました。

- ◇ 多様な障がいへの対応
 - ・ 介護保険、医療保険共に対応できるサービスとしての強みを活かし、精神疾患や発達障がい、難病等の幅広い対象者へサービス提供に努めました。

- ◇ 健全な経営を行うため、策定した経営改善計画の遂行
 - ・ 利用者や医師、介護支援専門員から信頼されるステーションとなるよう、必要な研修等を積極的に実施し、ステーションの対応力を強化することでサービスの質の向上に努めました。
 - ・ 利用者やその介護者とのコミュニケーションを積極的に行うことで、状態の把握を確実にし、異常の早期発見や入院期間の短縮を図り、実績の確保に繋がりました。

- ◇ 利用実績（営業日：月曜日～金曜日 ただし祝日、年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
訪問看護(予防)	836	62	79	69	49	68	67	394
		44.5	53	46	53	71	59	326.5
訪問看護(介護)	4,396	280	249	322	273	297	252	1,673
		260	292	311	347.5	383	314	1,907.5
訪問看護(医療)	1,506	121	84	127	85	104	133	654
		112	114	173	152	146	137	834

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
訪問看護(予防)	66	66	62	53	65	55	367	761
	65	64	49	71	73	59	381	707.5
訪問看護(介護)	234	223	238	263	216	267	1,441	3,114
	326.5	326	302.5	266.5	254	353.5	1,829	3,736.5
訪問看護(医療)	135	101	100	97	113	132	678	1,332
	137	104	130	85	83	104	643	1,477

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

ホームヘルプサービスいずみ

◇ 中重度対応の強化

- ・サービス提供責任者がそれぞれ研修を受け、定例会等で申し送りや検討を繰り返し、重度化しても在宅生活を支えることができるよう協力体制を整えることができました。

◇ 他事業所との連携強化

- ・サービスを提供していく中で知り得た情報や変化を、サービス提供責任者を中心に利用者の現状として把握し、ケアマネジャーへの報告を的確に行うことにより、状態に合わせた対応をすることができました。

◇ 利用実績（営業日：月曜日～日曜日 ただし、1月1日～3日までは除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
訪問介護（介護）	9,382	678	752	761	769	751	833	4,544
		832	855	784	829	758	736	4,794
緩和型 A 型	360	43	49	52	39	48	24	255
		22	22	18	19	23	26	130
訪問介護 （障がい）	496	36	34	34	45	37	31	217
		49	44	44	40	52	50	279

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
訪問介護（介護）	854	807	832	682	673	840	4,688	9,232
	791	767	643	634	605	684	4,124	8,918
緩和型 A 型	24	28	22	23	29	30	156	411
	27	25	24	27	32	29	164	294
訪問介護 （障がい）	35	31	40	48	54	52	260	477
	44	40	47	19	28	59	237	516

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

生きいきふれあい館

- ◇ 介護予防および地域交流、世代間交流の場等全世代の公共施設としての利用促進
 - ・ 小学校低学年を対象にした「走り方教室」の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止いたしました。

◇ 利用実績

(単位：延利用団体数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
生きいき	825	13	34	54	58	19	28	206
ふれあい館		52	50	54	51	28	43	278

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
生きいき	60	68	73	22	11	29	263	469
ふれあい館	59	54	70	63	92	79	417	695

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

葬祭事業

- ◇ サービスの向上
 - ・ ご遺族の方に穏やかな追想のときを過ごしていただけるよう、心をこめて業務にあたっています。
 - ・ 地域に根ざした施設運営として北前川老人会による施設周辺清掃を10回（1月2月を除く毎月第3日曜日）受入れました。

◇ 利用実績

(単位：件数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
葬祭事業	—	22	22	22	14	23	17	120
		21	20	11	12	17	23	104

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
葬祭事業	18	19	27	22	22	22	130	250
	26	21	21	23	21	29	141	245

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

コミュニティカフェきらやま茶屋（障害者就労継続支援B型）

◇ 働きやすい環境づくり

- ・利用者自らが作業内容を選択し意欲的に携わった事で、利用者の個人評価があがり前年度の平均工賃より 2,650 円増えました。
- ・利用者も事業所の一員として作業を任せる事で、協力し合い効率よく作業ができ利用者の自信につながり、一般就労へ移行する方や移行希望が増えました。
- ・新規作業を請け負う際は、職員と一緒に利用者が作業工程の説明を聞き企業側も利用者の能力を理解する事で分かりやすい指示書を作成してもらえました。

◇ 工賃向上のための売上確保

- ・特産品を使用した焼き菓子を製造でき、観光客への販売だけでなく地元の方にも興味を持っていただき詰め合わせ等で販売する事ができました。
- ・町の身障協会から週1回アルミ缶のプレス作業を委託されました。また、売上だけでなく機械を使用する作業の安全面に配慮するスキルも身に付ける事ができました。

◇ 分け隔てなく集える施設づくり

- ・特別臨時列車の運行に合わせたイベントを実施し、大人から子供まで楽しんでいただく事ができました。
- ・感染症の影響も少なくなり、2階を会議や集まりに使用する頻度が増え、カフェ店内利用する住民や観光客も増えました。

◇ 利用実績（定員：20名 営業日：月曜日～金曜日、ただし年末年始は除く）

就労継続支援は延利用者数（単位：人） その他項目は売上金額（単位：千円 ※端数切捨て）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
就労継続支援	4,500	325	304	314	311	316	344	1,914
		376	382	390	346	369	370	2,233
カフェ	3,945	270	241	212	285	270	292	1,570
		382	450	427	395	466	411	2,531
売店	1,164	106	104	75	103	93	98	579
		94	135	96	76	105	86	592
従たる事業所	5,641	—	—	—	181	279	275	735
		294	430	216	260	422	263	1,885

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
就労継続支援	327	356	336	303	316	384	2,022	3,936
	376	380	382	356	323	390	2,207	4,440
カフェ	264	333	283	208	232	290	1,610	3,180
	403	517	488	384	439	591	2,822	5,353
売店	93	88	100	58	77	87	503	1,082
	87	90	102	75	63	65	482	1,074
従たる事業所	351	421	603	224	329	581	2,509	3,244
	452	213	527	106	215	434	1,947	3,832

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

小規模多機能ホーム

- ◇ 事業所が地域の福祉拠点としての役割を担える体制作り
 - ・ 地域の中の福祉拠点として頼れる事業所を目指し、感染症対策を行ないながら、地域との交流を深めました。
 - ・ 3つの事業所それぞれの情報や課題を共有し連携したことで、利用者満足度を高めました。
 - ・ これまでの暮らしが継続できるよう利用者ニーズの把握に努め、サービスの適正化を図りました。

<小規模多機能型居宅介護ほたる熊川宿>

- ◇ 地域との繋がり・活動の継続と充実
 - ・ 感染症対策をしっかりと行い、地域とのつながりを継続できる様、地区文化祭への作品の出展や小学校との交流など安心して参加できる体制づくりに取り組みました。
 - ・ 事業所からも、地域の方との関わりが持てる活動の充実が図れるよう努め、体験利用のチラシを全戸配布し、受け入れも積極的に行いました。
 - ・ 利用者家族とも連携を強化することで利用者個々のニーズを把握し、その人らしい生活が続けられる支援に努めました。
 - ・ 認知症基礎研修や実践者研修を通して、スキルアップに取り組み、質の向上に努めました。
 - ・ 職員の退職によって適正な人員配置を維持することが困難な状況となり、小規模多機能型居宅介護に対する住民ニーズが低下している現状を踏まえ、令和4年度末で事業を廃止しました。

- ◇ 利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：登録者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
小規模多機能型 居宅介護	167	14	14	14	14	14	14	84
		10	10	9	9	10	9	57

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
小規模多機能型	14	13	14	14	13	11	79	163
居宅介護	8	8	9	8	8	0	41	98

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<小規模多機能型居宅介護みさき>

- ◇ 生きいきとした暮らしが継続できるよう利用者ニーズを把握したサービスの充実
 - ・利用者が住み慣れた地域で健康に暮らし続けることができるよう、僻地診療や担当主治医と、連携シートやメールなどで連携しました。また干物作りや創作活動など特技を生かし、ひとり一人の利用者の行き甲斐につながる活動を実施しました。

- ◇ 気軽に頼れる福祉拠点として地域の方と交流
 - ・新型コロナウイルス感染症対策を行い、運営推進委員の協力を得ながら、地域住民が気軽に参加できる行事（家族介護教室）を年2回実施しました。また体験利用や利用休止者の再利用を積極的に声掛け6名受け入れました。

- ◇ 利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：登録者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
小規模多機能型	147	13	13	12	13	13	13	77
居宅介護		14	14	14	14	15	14	85

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
小規模多機能型	13	15	14	15	14	16	87	164
居宅介護	14	14	14	14	15	14	85	170

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<小規模多機能型居宅介護きやま虹の家>

- ◇ 地域の身近な事業所として集える事業所づくり
 - ・子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄って頂ける事業所を目指し、虹の家だより等で日頃の活動を掲載しました。お米や野菜などを持って訪問して下さる方が増え、にじ SUN の再開により、事業所を訪れて下さる方が増えました。
 - ・2階の利活用については学生になどの若者の利用には繋がりませんでした。家族介護教室での利用がありました。また事業所を訪れて下さった方に見ていただき活用をすすめる事ができました。

◇ 自宅生活が継続できるサービスの提供

- ・介護度に限らず、本人の希望に沿った暮らしがいつまでも続けられるよう医療との連携を密にし、報告書や日頃の様子などの情報交換を行いました。また、車椅子の方の身体の負担を軽減するため、スロープの設置や浴槽に滑り止めマットを新しくするなど、事業所のバリアフリー化をすすめました。

◇ 利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：登録者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
小規模多機能型	180	14	14	12	15	14	13	82
居宅介護		16	16	16	16	15	15	94

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
小規模多機能型	16	16	16	17	16	16	97	179
居宅介護	13	12	12	10	10	10	67	161

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

介護予防拠点施設五湖の郷

◇ 地域交流の場としての機能強化

- 五湖カフェは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止、また梅の里夏まつりについても、地域づくり協議会で協議した結果、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。
- 介護予防拠点フロア内で感染対策を徹底して、家人や知人等と面会を実施しました。

◇ ボランティア活動の推進

- 定期的に活動いただいている運転ボランティア、カフェ運営ボランティア、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を休止しています。
五湖の郷敷地内の草刈り等の清掃ボランティアは感染予防を行い年間 71 名の方に活動いただきました。

◇ 福祉学習の推進

- 梅の里保育園との交流、施設内で利用者と直接関わる事を目的とする学習についても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行うことができませんでした。
- 梅の里小学校との交流を目的に介護予防拠点フロア内に児童の創作作品を展示しました。

特別養護老人ホーム五湖の郷

<特養事業>

- ◇ 人生の最期まで寄り添えるよう「安心・安全・信頼」の介護実現
 - ・ 担当者会議等にて 24 時間シートを活用し、個性や生活リズム・こだわり等利用者の姿を理解し必要なケアの統一に取り組みました。
 - ・ 利用者にゆかりのある方々との縁を大切にするために、感染対策を徹底し、各居室の窓越し面会を実施し安全な面会に取り組みました。
 - ・ 介護ロボット等の機器の導入により、職員の腰痛対策だけでなく、トイレ誘導が可能となった利用者や看取り対応時における心肺状況の把握による精神負担の軽減等、安全で安心できる環境整備に取り組みました。
 - ・ 喀痰吸引研修に介護職員 2 名受講しました。
 - ・ 年間 9 名の入院者が出たものの、早期発見や嘱託医との連携による重篤になる前の早期対応により入院期間の短縮に繋げ、実績減を最少にとどめる事ができました。

◇ 利用実績（定員：29 名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
特別養護	10,375	869	877	870	868	896	866	5,246
老人ホーム		813	840	861	899	887	836	5,136

（下半期）	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	合計
特別養護	875	828	872	880	784	865	5,104	10,350
老人ホーム	857	849	880	899	804	861	5,150	10,286

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<高齢ショート事業>

◇ 在宅サービスとして「自分らしく生きる」を支えられるよう「安心・安全・信頼」の介護実現

- ・ アセスメントや24時間シートの活用により、生活リズムやこだわりなど在宅での姿をショートステイ利用中も継続できるよう努めました。
- ・ 介護機器やICT導入により職員の腰痛対策だけでなく、トイレ誘導が可能となった利用者もあり、安心安全な環境整備や生きがいへの結びつきに繋がりました。
- ・ 家族やケアマネジャーとの連携や相談しやすい関係作りに努め、細かな報告や聞き取りを行いました。また緊急利用も可能な限り受け入れ、安心して頂けるサービス提供に努めました。
- ・ 11月に新型コロナウイルス感染症に罹患していた利用者から職員や他利用者にクラスター感染する事がありましたが、特養ユニットへの感染拡大を防ぐことができました。

◇ 利用実績（定員：10名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
高齢者ショート ステイ(予防)	10	0	0	0	2	0	0	2
		3	0	0	0	0	0	3
高齢者ショート ステイ(介護)	3,093	246	270	242	278	253	221	1,510
		242	242	262	252	253	237	1,488

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
高齢者ショート ステイ(予防)	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	3
高齢者ショート ステイ(介護)	240	245	280	283	236	222	1,394	3,016
	214	185	254	225	229	261	1,368	2,856

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

認知症対応型グループホーム五湖の郷

- ◇ 入居者と地域の多様な人材交流の場を提供し、認知症の相談・支援・啓発の拠点としての役割の強化
 - ・ 入居者の自立と役割を大切に毎日のごみ出しを日課とし、館内や屋外の散歩をすることで特養やデイサービスの利用者と交流しました。
 - ・ 感染対策を徹底し、ラウンジ内で家族等との面会や交流で気分転換が図れました。
 - ・ 正月には入居者が家族を想いながら年賀状作成を行いました。また、利用者と家族が電話で会話するなど、色々な通信手段を通じて家族との繋がる機会を設けました。

- ◇ 入居者のニーズに対する医療との連携と体制強化
 - ・ 家族の希望や入居者の重度化に伴い、同じ五湖の郷の特養と連携しスムーズな移行に繋がったことで、安心した生活を継続することができました。
 - ・ 入居者2名が入院から退居となりましたが、主治医や特養医務室との連携を密に行うことでスムーズに緊急対応ができました。

◇ 利用実績（定員：9名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
グループホーム	3,219	270	256	248	248	248	269	1,539
		270	276	262	279	279	270	1,636

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
グループホーム	279	251	225	248	224	269	1,496	3,035
	279	270	279	244	196	253	1,521	3,157

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

障がい者日中活動支援施設

- ◇ 障がいの程度やニーズに応じた支援の強化
 - ・ ケアホーム、障がいショートとの一体運営を活かし、利用者のニーズに応じた支援を行いました。
 - ・ 一人ひとりの利用者に対して専門的な支援を個別に行うことができるよう職員のスキルアップに努めました。

- ◇ 地域住民に対して障がい者（児）理解の促進
 - ・ 新型コロナウイルス感染症予防のため上半期は施設外への野外活動は極力自粛しましたが、下半期は2回実施しました。また少人数で行う麻雀ボランティアを年間2回受け入れました。

<障がい者デイサービス事業（生活介護）>

- ・ 障がいの程度や障がいの種類（身体障害者・知的障害者・精神障害者）、人間関係も配慮して活動内容や活動場所を用意しました。
- ・ 利用者が自立した日常生活を送れるよう職員は研修等に参加し、学んだ情報をチームで共有し専門性を高めました。
- ・ 生産活動に意欲的な利用者に対して、自社独自の作業を年間927回提供しました。また、一般企業から受注を受けた内職作業に挑戦しました。

- ◇ 利用計画（定員：20名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
生活介護	3,120	260	260	260	270	260	260	1,570
		260	229	254	240	214	220	1,417

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
生活介護	270	260	260	250	240	270	1,550	3,120
	237	238	200	206	200	253	1,334	2,751

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<日中一時支援事業>

- ◇ 児童を安全に受け入れられる職員体制の整備
 - ・ 放課後や長期休暇期間は職員体制を整え、安全に受け入れできるよう努めました。家族や相談支援員からの利用希望がある場合は、送迎範囲を拡大し美浜町や小浜市の利用者も受け入れました。

◇ 利用計画（定員：1～4名、営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
日中一時支援	810	65	65	65	75	85	65	420
		90	74	70	82	99	69	484

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
日中一時支援	65	65	75	65	55	65	390	810
	58	72	73	74	73	78	428	912

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

障がい者ケアホーム五湖の郷

- ◇ 利用者が安心して生活ができ、その上で生き生きと自分らしく過ごすことができるための支援
 - ・ 利用者の個別支援に力を入れることで、余暇の支援や身体的な介助の充実に繋げることができました。また、障がいデイと一体的に運営を行うことで、利用者個々のニーズに応じた支援を提供することができました。
 - ・ 外部研修や他法人との会議に積極的に参画し、事業所内での人材育成や加算取得などに繋げることができました。

<ケアホーム事業>

- ◇ 利用者が安全、安心に過ごし自立した生きがいのある生活ができる事業所づくり
 - ・ 外部の事業者や他部署と協力し、高齢化や重度化した利用者に対して安心した生活を提供することができました。また、日中活動の事業所との連携を強化することで、一体的に利用者の課題に取り組むことができました。
 - ・ 余暇支援を個別に対応することで、それぞれの利用者に対してより深い支援を実施することができました。

- ◇ 利用実績（定員：7名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
ケアホーム	2,408	201	204	201	205	203	201	1,215
		199	199	200	171	143	167	1,079

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
ケアホーム	206	200	206	202	186	208	1,208	2,423
	171	171	205	202	159	176	1,084	2,163

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<障がいショート事業>

- ◇ 緊急時なども含めて、使いたい時に使えるサービスづくり
 - ・ 急な利用変更や追加利用にも対応してサービスを提供することができました。
 - ・ ケアホームの利用者との関係性にも配慮して、お互いが安心して生活ができるように支援することができました。

- ・新型コロナウイルスなどの感染症に対してのルールや対応を統一してサービスを
提供することができました。

◇ 利用実績（定員：2名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数【1泊を1とする】）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
障がいショート	411	20	40	41	54	49	41	245
		29	23	20	24	26	24	146

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
障がいショート	25	27	26	20	21	23	142	387
	20	25	16	22	23	25	131	277

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

<移動支援事業>

◇ 感染症対策に十分配慮した上で、柔軟なサービス提供

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、新規の利用者獲得には至りませんでしたが、感染対策を徹底し継続したサービスを提供することができました。
- ・対応できる職員が増えたことにより、サービス内容もより充実したものになりました。

◇ 利用実績（営業日：月曜日～金曜日）

（単位：延利用時間）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
移動支援	140	2	3.5	2	4	2	4	17.5
		3.5	4	2	4	4	3.5	21

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
移動支援	4	4	2	4	4	5	23	40.5
	3.5	4	2	2	4	4	19.5	40.5

※上段は昨年度実績、下段は今年度実績

五湖の郷食事サービス

◇ 安心安全な食の提供

- ・ 納品業者においては、毎月の検便検査を行い検査結果の報告書を提出してもらうことで衛生管理を行っています。また厨房職員においては毎月の検便検査と同時に10月から2月までの5ヶ月間ノロウイルスの検査も実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染症予防対策として自己管理を徹底しました。
- ・ 食材は地産池消に努め形や大きさにとらわれず旬の美味しく安全な食材を使用しました。また地域住民から頂いた野菜も無駄なく活用しました。

◇ 利用者の年齢層や体力に見合った内容の形態や、献立の検討

- ・ 職員間で常に利用者の情報を共有し、体調に合わせた形態の変更や食事内容の変更に対応しました。
- ・ 嚥下の著しく低下した利用者の食事内容については、総カロリーと個々に合った栄養成分を優先し、高カロリーゼリーや高カロリードリンクを提供し、食材比率にとられることのない食事内容を提供しました。
- ・ 若い年齢層の利用者が多い障がいサービスの食事内容については、カロリー調整として食事量を増やしました。